

「財務会計Ⅰ」シラバス

学科	商業科	学年	3 年	類型		組	5 組	単位数	2
使用教科書	高校財務会計Ⅰ（実教出版）								
副教材等	完全段階式 標準検定簿記問題集 全商 1 級会計（東京法令出版） 日商簿記検定 模擬試験問題集（実教出版）								

1 学習の到達目標

ビジネスの見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、会計情報の提供と活用に必要な以下の資質・能力を身に付ける。 ① 簿記で学んだ知識や技能を基に、財務諸表に関する知識や高い技能を身に付ける。 ② 会計法規及び基準と会計処理の妥当性を見だし、科学的・創造的に企業を分析する力を養う。 ③ 会計の処理・発信・活用に関する能力の向上を目指し、主体的・協働的に取り組む態度を養う。

2 学習評価

次の三つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとまりごとに、下記の評価項目により評価をする。学年末において、観点別評価を 5 段階の評定に総括する。

知識・技術	財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解を深め、関連する技能を身に付けているか。	(7)(8)(9)(10)(11)(12)
思考・判断・表現	企業会計に関する諸問題の問題解決を目指して、自ら思考を高め、適切に判断し工夫する能力を身に付けているか。	(5)(6)(7)(8)(10)(11)(12)
主体的に学習に取り組む態度	「財務会計Ⅰ」での学習内容、財務諸表の作成や活用などに広く興味・関心を持ち、主体的・積極的に取り組んでいるか。	(1)(2)(3)(4)(5)(6)
評価方法	主な評価項目	
学習状況の観察	(1)演習の取組状況 (2)ペアワークやグループワークへの参加状況 (3)教師の質問に対する応答 (4)单元ごとのルーブリック評価の実施	
課題やノート等の提出	(5)平日・長期休業中の演習 (6)考査ごとのノート・問題集の提出	
ペーパーテスト	(7)定期考査 (8)課題テスト (9)单元テスト (10)小テスト	
検定試験	(11)全商簿記実務検定 1 級 (12)日商簿記実務検定 2 級	

3 学習の計画

学期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	評価項目
一 学 期	第6編 財務諸表の活用 第22章 財務諸表分析 第23章 連結財務諸表の活用 発展編 連結財務諸表 第24～26章 連結財務諸表の作成	・財務諸表を用いて意味と分析方法を理解し、企業の財政状態や経営成績の良否を判断する。 ・連結財務諸表の目的、範囲、活用について理解する。 ・支配獲得日における連結財務諸表の作成手続きについて理解し、投資と資本の相殺消去やのれん償却などの連結仕訳の会計処理を習得する。 ・連結精算表の記入方法と、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本変動計算書の作成方法を習得する。	(10) (2) (2)(10)
二 学 期	Let's Try 第6章 有形固定資産 第8章 減価償却費 第9章 無形固定資産 第12章 純資産 第15章 経常損益の計算 第16章 営業損益の計算 第17章 当期純利益の計算 日商簿記検定対策 1 仕訳の問題 2 個別論点と連結会計の問題 3 決算の問題 工業簿記の問題Ⅰ	・固定資産の圧縮記帳と割賦購入について理解し、会計処理を習得する。 ・税法による減価償却費として、200%定率法の計算方法を習得する。 ・ソフトウェアの製作途中の製作費や利用しなくなった場合の会計処理について理解する。 ・新株の発行や自己株式の処分する場合の別段預金と株式申込証拠金の会計処理を習得する。 ・収益と売上原価を認識する方法について理解する。 ・為替予約の意味を理解し、会計処理を習得する。 ・火保険契約を締結している場合の火災による損害を受けた会計処理について理解する。 ・収益認識・債権に関する項目や外貨建取引、本支店会計、引当金、リース会計などの取引について理解する。 ・株主資本等変動計算書・銀行勘定調整表・の作成、固定資産の減価償却費、連結損益計算書の完成を習得する。 ・貸借対照表・損益計算書の作成手続きを理解し、本支店会計の意味を理解する。 ・個別原価計算について理解する。 ・製造原価報告書、工程別総合原価計算の作成方法を習得する。	(10) (10) (10) (10) (10) (10) (10) (10) (10) (2) (6) (2) (5) (2) (6)
三 学 期	工業簿記の問題Ⅱ	・直接原価計算、標準原価計算の作成方法を習得し、CVP分析について理解する。	(10) (11) (12)

備考 (1)(3)(4)(5)(7)(8)(9)については、全ての単元において評価項目として用いる。